



CONTENTS

- 2 院長挨拶
- 3 地域連携室からのお知らせ
- 4 リハビリテーション科「理学療法」のご紹介
- 5 医療療養病棟のご紹介
- 6 栄養管理科からのお知らせ
- 7 医療法人悠紀会からのお知らせ／診療実績のご報告

基本理念 皆さまの健康で豊かな生活を支えるために、信頼される真心のサービスを提供します。

- 基本方針**
- 1、社会的役割・・・信頼される医療サービスを提供し、地域住民の健康で豊かな生活に貢献します。
 - 2、利用者さまの尊厳と権利の尊重・・・利用される方々の尊厳と権利を尊重した医療サービスを提供します。
 - 3、快適な環境・・・希望をもって豊かな生活を送ることができる環境づくりをめざします。
 - 4、チーム医療・・・全人的・総合的最善の医療サービスを提供する為に「チーム医療」を実践します。
 - 5、豊かな専門性・・・スタッフの人格形成はもとより、高度な専門知識の習得や技術の向上に努めます。

「コロナ禍でも大切なこと」

悠紀会病院 院長 古森 顕一



当院は、慢性期の医療療養を主に担い、その中でもリハビリテーションと在宅復帰に力を入れている病院ですが、もう1つの大切な役割として、将来的な終末期も視野に入れた看取りの機能も有しています。日々の入院相談には、リハビリテーションを経て住み慣れた我が家へ帰るといった目的の方から、病状の進行や介護事情のため、自宅や介護施設等での療養が難しく、病院でこのまま安らかに過ごされることを願う方もいらっしゃいます。玉名地域には長期療養を担う医療機関は多くなく、できる限り自宅から近い病院での療養を願われる患者様やご家族のお気持ちに添うことができるよう努めております。

そのような中、新型コロナウイルス感染拡大によって、これまで当たり前だったことに制限を設けなくてはならなくなりました。特に「面会」ができなくなることは、患者様やご家族にとって大きな影響の1つでした。当初は強い抵抗感や憤りがありましたが、時間の経過と共に、「仕方が無い」「どこの病院や施設も同じ」「リモートはできるのでありがたい」という感覚に慣れてしまった感じは拭えません。今もお看取りの方がいらっしゃることも事実であり、心苦しくも感染対策としてはやむを得ないとしつつ、最期まで患者様・ご家族にできる限りの支援を行うことを心がけておりました。

そのような中、先日、医療法人悠紀会の物故者追悼法要が営まれた際、ご住職より次の様なお話をいただきました。「先日、悠紀会病院でお亡くなりになった方のお宅へお弔いに伺った際、いよいよ最期が近くなった時にお部屋や環境などを工夫して自由に面会ができるようにしていただいた。ずっと面会はできないものと諦めていた中で、最期にとっても温かい配慮があって大変感謝している」というものでした。そのお話をいただいた時、我々職員に重くのしかかっていた重圧感が少し軽くなったような気持ちと雲間から差し込む光を感じました。病院として、病気や怪我からの回復を喜ぶことは重要ですが、同じように安らかな人生の最期をお見送りさせていただく機会にも携わることができることに改めて責任の大きさと感謝の念を抱いたところです。

新型コロナウイルス感染症の終息が少しでも早く訪れることを願いつつ、これからも患者様やご家族の思いに寄り添って職員一同さらに励んで参ります。

熊本県教育委員会より紫藤名誉院長が表彰されました



このたび、学校医の職責を長きにわたり携わってこられた功績に対し、熊本県学校保健功労として熊本県教育委員会より表彰がありました。

地域連携室からのお知らせ

当部門にはソーシャルワーカー(社会福祉士)と看護師を配置しており、相談内容に応じて、院内では多職種、地域においては各医療機関や介護サービス事業所等と連携を図っています。前号は『入院当日の地域連携室の関わり』について掲載させていただきましたので、今号では入院から退院までの流れを踏まえながら、『入院中の地域連携室の関わり～カンファレンス編～』をご紹介します。

《入院から退院までの流れ》

* 大腿骨骨折で入院となった方の事例

(回復期リハビリテーション病棟の場合)

入院

リハビリテーション開始

定期的なカンファレンス

退院に向けての取り組み

- 家屋調査
- 施設見学
- 介護指導
- 社会資源の活用など…

退院

退院後訪問
※必要に応じて

《当院で取り組んでいるカンファレンスの種類について》

① 入院時スタッフカンファレンス(入院翌日)

各職種(医師・看護師・リハビリテーションスタッフ・社会福祉士・連携室看護師)が患者様の状態や課題などについて情報共有します。

【ここでの地域連携室の関わり】

患者様の入院前の生活状況や入院に対する患者様・ご家族の意向などについて情報発信をします。

② 入院時カンファレンス(入院から14日以内)

各職種から患者様・ご家族に対して、入院期間や退院に向けた課題・目標について説明をし、情報共有を図っていきます。

③ スタッフカンファレンス(毎月1回)

多職種と目標に向けた進捗状況や新たな課題などの共有を行います。

【ここでの地域連携室の関わり】

ソーシャルワーカー・退院調整看護師は、福祉サービス導入の進捗状況や患者様・ご家族の意向などの情報提供を行います。

④ 中間カンファレンス(入院期間中1回(入棟期限1/3経過後))

タブレットPCを使用し、動画を見ながらリハビリの進捗状況を説明します。内容は、移乗・移動動作、更衣や排泄動作、余暇時間の過ごし方などについてご家族へ情報提供を行います。

⑤ 退院前カンファレンス(退院1～3週間前) ※下記の写真をご参照

患者様・ご家族、院外の関係者(ケアマネージャー等)を含めて、退院後の生活について一緒に検討し共有します。

【ここでの地域連携室の関わり】

ソーシャルワーカー・退院調整看護師が中心となってカンファレンスを進めます。退院後に必要な社会資源の活用等についても助言を行います。また、患者様が退院後不安なく生活が継続できるよう退院後利用予定のサービス事業所と情報を共有します。

《退院前カンファレンスの風景》

現在は、カンファレンス時に密にならないように、オンラインでのカンファレンスを行っています。オンラインにすることで、遠方のご家族や退院後利用予定のサービス事業所に多く参加していただき、安心して自宅退院ができるように情報共有を行っています。



《社会福祉士・退院調整看護師》

患者様が、退院後不安なく生活が継続できるよう退院後利用予定のサービス事業所と情報を共有します。

《作業療法士》

退院後自宅での移動手段は、伝え歩きを検討しています。調理訓練を行い、料理は可能と考えます。買い物にお手伝いが必要です。

《医師》

全身状態は安定しています。退院後も薬のコントロールが必要です。処方薬がなくなる前にかかりつけ医を受診してください。

《患者本人》

退院後の不安はありません。自宅に帰ったら、料理を作りたい。できれば買い物に行きたい。

《病棟師長》

退院に向けて、自宅で使用されていた薬カレンダーを使用し、薬の自己管理ができるよう訓練を行っていきます。

リハビリテーション科「理学療法」のご紹介

理学療法は、リハビリテーションの中でも、特に基本的な身体機能の回復や維持を目的に支援を行います。基本的な身体機能とは、立つ・座る・歩く・起き上がる・寝返る等のことで、後々の後遺症や寝たきりの要因とならないための重要なリハビリテーションを理学療法は担っています。今回は、当院における理学療法の一場面をご紹介します。

【「IVES」による運動療法】



運動療法

【機材による運動療法】

病気や怪我で低下した体力、機能が損なわれた部位等の回復を促進するために運動療法を実施します。

運動療法には様々な種類があり、トレーニング器具から、片麻痺の方に「IVES」を用いるなど、特殊な機器も利用して回復や改善への支援を行います。

【短下肢装具】



補装具の作製

【膝装具】

患者様の障がいの状態によっては、補装具を作製します。

補装具を使用することで、より安全・安楽に起立や歩行が可能となり、以降の訓練や退院に向けた準備も可能となります。今後の生活を見据えた補装具の着脱練習も行います。

【歩行器具歩行】



歩行器具の選定

【杖での屋外歩行】

様々な種類がある歩行器具の中から、患者様の状態、退院後の住環境等に応じて、最適な歩行器具を選定します。

選定した歩行器具を用いて、ご自宅での生活を想定した、実践的な歩行練習を行います。

私達は、患者様の「また歩きたい！」をお手伝いします。

令和3年度 学会発表のご報告

第26・27回合同学術大会日本摂食嚥下リハビリテーション学会(令和3年8月19日～21日)

- シーティングにより摂食嚥下機能の向上が得られた生活期摂食嚥下障害の一例
悠紀会病院¹⁾ 郡山大介¹⁾、川口真和¹⁾、山崎裕子¹⁾

医療療養病棟のご紹介

当病棟には、急性期病院での治療が終えたものの、引き続き医療やケアの必要性がある方が入院しておられます。新型コロナウイルス感染症の影響により面会や病棟の外に出る機会に制限がある中で、患者様の入院生活が少しでも快適になり、療養やリハビリにも良い効果をもたらすことができるように、病棟内でチームをつくり日々の活動に力を入れています。

令和3年度のチーム活動をご紹介します

- 1 医療安全チーム：定期的な病棟内ラウンドと安全対策の周知等。
- 2 感染対策チーム：感染有無の明確化チェック及び勉強会等の実施。
- 3 褥瘡チーム：安楽に過ごせるようなポジショニング検討とエアマットの管理等。
- 4 レクリエーションチーム：患者様目線で企画し年間計画に沿って実施。
- 5 口腔ケアチーム：歯科衛生士と連携し、ケア実施指導と定期的評価等。
- 6 接遇チーム：接遇標語作成や掲示、接遇改善・向上に対する取り組み。

一例として、9月のレクリエーションチーム活動状況をご紹介します！

「季節を感じながら、離床を楽しんでもらおう！」「免疫力を上げよう」を目標に、今年度4月からレクリエーションチームを立ち上げ年間計画を企画しました。2回目のレクリエーションを行い、患者様の笑顔と楽しむ声を聞くことができました。今月も更なる計画を立てています。

病棟師長からの一言

患者様と真摯に向き合い、真心のサービスが提供できるよう心がけています。

また、スタッフが働きやすい職場風土を構築することに取り組んでいます。





ダイナペニア (dynapenia)



現在では、フレイルやサルコペニアに似た「ダイナペニア:dynapenia」とい概念があります。サルコペニアは「骨格筋量が減少して筋力低下が起こること」を指しますが、ダイナペニアは「骨格筋量は維持されているが筋力低下が生じている状態」のことを指します。サルコペニアは筋肉の「量」に着目していますが、ダイナペニアは筋肉の「質」に着目した概念と言えます。

ダイナペニアはサルコペニアと同様に、死亡率や身体機能障害のリスク因子であることが報告されています。サルコペニアやダイナペニアを予防するためにも、しっかりタンパク質を摂取して、運動の習慣をつけましょう。

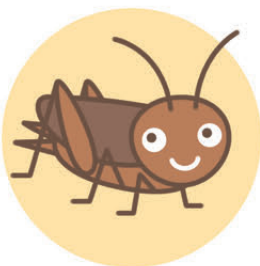
代替肉(だいたいにく)はもう食べましたか？

代替肉って？

代替肉は大豆などの植物性原料を使い、肉の食感に近づけた食品です。フェイクミートやソイミートと呼ばれることもあります。現時点では食肉より割高になっていますが、市場拡大するにつれて価格が安くなる事が予想されることと、環境への負荷が食肉の半分以下と言われていることもあり注目されています。代替肉をメニューに取り入れているハンバーガーチェーン店等でも食べる事ができます。



食料危機への対応



代替肉は人口増加に対する食料危機の面からも注目されています。いま欧州では大豆以外の代替肉が話題になっています。その食材は「昆虫」です。牛・豚・鶏などに代わる重要な動物性タンパク源として、欧州では昆虫食の普及に向けた取り組みが勧められています。いつか日本でも昆虫が原料の食材が食卓に並ぶ日がくるのかもしれないね。

・医療法人悠紀会からのお知らせ・

献血

7月29日(木) 13時15分～15時30分
献血実施人数 22名

新型コロナの影響で血液の確保が厳しい今だからこそ、積極的な献血に協力しようということで、職員・関係業者の協力による献血が行われました。対策としてマスク着用・消毒・検温を徹底しながら行い、26名の方にお申し込みいただきました。ありがとうございました。

今回は、12月頃の予定です。皆様のご協力お待ちしております。



院内研修会の報告(DVD等視聴研修)

令和3年度身体的拘束等適正化研修Ⅰ

『「自分らしく」を支え続けるために～いま、自分らしく生きていますか?～』

7月30日(金) 17時00分～18時00分



毎年、『自分らしく』をテーマに悠紀会スタッフが講師となり全体研修を行っています。

3密になる環境を避けるため、まずは少人数を対象に研修を行い、後日、DVD視聴研修として職員全員の受講を行います。

感染防止対策研修会

第1回『真夏の食中毒～細菌を知って防ごう食中毒～』(6月)
第2回『COVID-19の感染対策』(8月)

Withコロナでテイクアウトやデリバリーの増加による食中毒のリスクが高まっています。食中毒予防のためには、何をしたらよいか学びました。

医療安全研修会

第1回医療安全研修会(7月)

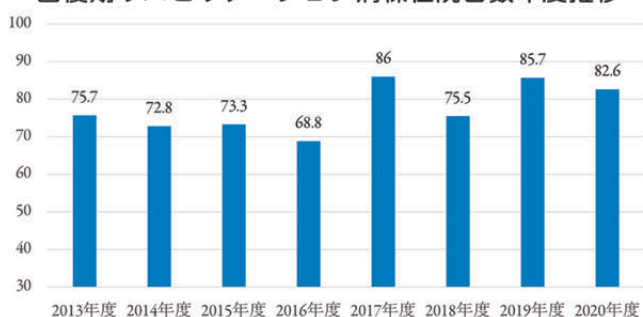
- ①『災害関連における業務継続計画(BCP)』について
- ②『改正個人情報保護法』について

BCP(事業継続計画)とは?

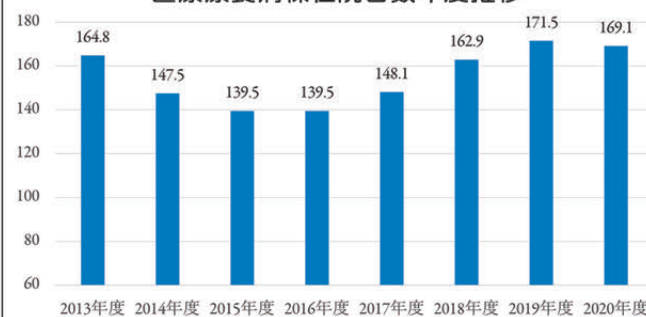
感染症や自然災害など緊急事態に遭遇した際に、損害を最小限に抑えつつ事業の継続や復旧を図るための計画のことです。まずは計画の必要性から学びました。

診療実績のご報告

回復期リハビリテーション病棟在院日数年度推移



医療療養病棟在院日数年度推移



外来診療担当医表

診療時間【午前9:00～午前12:00(受付午前11:30まで)、午後1:30～午後5:00(受付午後4:30まで)】

診療科	月	火	水	木	金
内科	紫藤 忠博	高木 和男	松村 利昭	高木 昭宏 紫藤 忠博	
循環器内科			古森 顕一		古森 顕一
リハビリテーション科		伊勢 紘平 (整形外科)			山崎 裕子
脳神経内科		井手 正美	井手 正美		

診療科

- 内科
- リハビリテーション科
- 循環器内科
- 脳神経内科
- 呼吸器科
- 消化器科
- 歯科(予約制)

相談、その他

- 外来・訪問リハビリテーション相談
- 摂食嚥下相談
- 整形外科相談

病棟構成

入院病床数 139床

回復期リハビリテーション病棟	32床
医療療養病棟	50床
介護療養型医療施設	57床

診療設備

- マルチスライスCT撮影装置
- X線テレビ装置
- 一般用X線装置
- PACS(医用画像管理システム)
- 超音波診断装置
- 心電図モニター
- 生化学自動分析装置

関連事業所

- ◆訪問リハビリテーション 悠紀会病院
- ◆介護医療院 ゆうきの里
- ◆介護老人保健施設 ゆうきの里
ゆうきの里 通所リハビリテーション
介護相談センター ゆうきの里(居宅介護支援)
- ◆グループホーム ゆうきの家
- ◆小規模多機能ホーム ライフサポートいわさき
- ◆小規模多機能ホーム しいの木の里(山鹿市)
- ◆社会福祉法人ゆうき会
特別養護老人ホーム ケアタウン光の森(菊陽町)

アクセス

悠紀会病院



〒865-0011

熊本県玉名市上小田1063番地

TEL 0968-74-1131 FAX 0968-74-3821

ホームページ <http://www.yukikai.or.jp>



各種相談については、地域連携室へお尋ねください。

TEL 0968-74-1131

※お電話による問い合わせは、月曜日～金曜日の午前9時～午後5時までとなっております。